

市民の声

～行方市によせる想い～



大野 晃二
(繁 昌)

地域社会運営の異なる3町が合併し、行方市として船出し3年目に入りました。市長はじめ市職員の方々、市議会議員各位一丸となって、市の

運営構築に取り組んでいただいていると思います。しかし、現状は、新聞紙上等で報道されているように財政的には窮地に陥っている状況を考えると、市民としては大変心細く、夕張市の二の舞にならないことを切望します。

私たち市民も従来の地域意識から脱却して一体となって、行財政改革の推進に協力し、多少の痛みにも耐えることも必要ではないかと考えま

す。まだまだいろいろな面で地域間格差が見られますが、なにより事業遂行には執行部と議会とが市民の立場に立って、十分議論し、市民に分かりやすい市民のための開かれた市政運営をしていただきたいと希望します。

特に、高齢者や子供たちが安心して暮らせる行方市を築いていきたいと期待します。



土子 健一
(矢 幡)

今、私は小学校のPTA役員をやっています。子供たちが明るく、元気で生活できるように学校の先生方、

保護者のみなさんといつも話し合い、そして地域のみなさんに協力してもらっています。

私は、私もそうだったように子供たちが小学校を卒業して10年・20年後、この卒業生で良かったなあと思ってもらえるよう期待します。

私も小学校を卒業して30年経ちますが、この地域の自然、人と人のつ

ながりの温かさは、あのころと変わっていません。

市では、小学校の合併問題が多くの人意見を聞きながら話し合いが進んでいると思います。行方市の将来を背負う子供たちがいつも笑顔でいられる市であること、そして、いつまでも行方市を誇りに思えるような市政を期待します。



羽生 唯仁
(沖 洲)

後ろ向き行政と国依存型市政にウンザリしている住民は少なくない。商業誘致や工業での村おこしは懸念される。地域振興という自立した市運営が将来の礎につながると確信する。幸い我が市は肥沃な大地と首都

圏の冷蔵庫としての農業がある。正に農業を通して地域の振興を行えば「リスク」は最小限で済むし、「自然・文化・人」をフルに活用することにより、自然資源と文化資源を住民が1つにまとめれば地域型農業振興活動を展開できる。

試みとして昨年から休農地を利用し、ヒマワリの種を植え、食用ヒマワリ油を搾り、消耗廃油を化石燃料の代りにバイオ燃料として農業機械や運搬車、自動車等に利用する大規

模事業を沖洲土地改良区と、中央農業総合研究センターが行っている。先送り市制と行政主導から脱却し住民のイニシアティブへの転換と民間、行政、議会のパートナーシップ形成こそが重要となる。

まずは、住民の知恵を搾り出し新しいかたちを創ることが行方市の将来の財産となるのではないだろうか。

後世に行方台地を伝えるために…

編集後記



議会だより第9号をご高覧いただきまして誠にありがとうございます。

さて、福田内閣が発足して1カ月になります。福田総理の所信表明のキーワードである「自立」と「共生」については、深い意味があると思われま

す。「自立」とは、自分の行動や信念に責任をもち、国民が納得出来る政治倫理の確立を諮ることだと考えます。「共生」については、与党と野党が、仲良く共生するのではなく、福田総理は、国民全体が、いま何を求めているのかを知り、国民と共に将来に向かって共生することではないでしょうか。

少なくとも私たち市議会は、国民と市民の言葉を置き換えて、「自立」と「共生」の持つべき意味をしっかりと守りたいものです。

今後とも私たち市議会の広報紙であります議会だよりをよろしくお願ひ申し上げます。

(横田太一)

広報委員会

- 委員長 宮内 正
- 副委員長 高木 正
- 委員 松兼 幸蔵 岡田 晴雄
- 委員 高橋 正信 横田 太一